

てんご新聞

11.No102
市岡城
行任
05.発行
発費

落合峠は、東祖谷山村内を指折りの紅葉の名所です。

その落合峠のクリーン登山に東祖谷中学校生が臨みました。

当日は、天気という事なく、紅葉度という事でのベストコンディション。

落合峠周辺のゴミ拾いと、トクらの清掃を全員で実施。その夜、小津徳大教授の案内で、峠付近で「環境講座」。

一九六〇年代の写真と、今の植物分布の違いを通じて、峠の変化について説明をうけました。

←峠での講座



東祖谷中学校 落合峠 クリーン登山 環境講座

多くの家・石垣が美しい落合地区



落合地区

六〇年頃は、茅が多かった。峠周辺、現在はクマザサと、ウラボシ

ロモシの木々が多く育って、その変化を目で確認されました。

クマザサで覆われると当然ながら、小ナニ高山植物の姿は消えてしまっている。

今では、シコクフウロ、ミヤマリンドウ、そしてマムシシラウなど種類が少なくなっています。

このまま推移すれば、数十年後には、落合峠は、ウラボシロモシの林になることが容易に想像がつかれます。

人が手を加える元がよいのかどうかの分かり道が今にどれくらいあるのかは知りません。

個人的には、多くの高山植物を採りまわし、落合峠、そこへ三顧、天狗峠、剣山、次郎峠などの山々が眺められる落合峠がいいなあ。

「重伝建」に指定される

築教百年の民家とか石垣、煙がもく残っている落合地区が、この程、重伝建「指定建造物」として、国より指定されました。

徳島県内では、脇町、うづらの町に次いで二例目という希少地です。上の写真の景色をずっと守り続け、住民の意志で、次世代へ伝えたい、こゝが大切にしたいとキきます。

ただ、身にはいるのは、東祖谷村にある国指定文化財が、どのよつに扱われているかをみると、大変心配にはなります。

また、単に、補助金だけを当てるに、この落合地区の保存にはなうはいよつにむかひかしてほしいとおもいます。その為には、落合地区の村民の自己力、支援、そして、村づくりにもつた「こゝだれ」が必要だともおもいます。

誇りをもち、自慢出来る「重伝建」指定落合地区を作りたいかんかえ、

剣山

